

建設現場 アートで彩る

水戸 来秋オープン複合施設

仮囲いに小中高生の絵画

水戸市泉町に来年秋オープンする複合施設「テツ・アートプラザ」の建設現場で、工事の仮囲いをギャラリーにして地域の小中高生の絵が展示され、通りがかりの人々を楽しませている。



未来をイメージした作品を制作した常磐大高の美術部員たち（6月、水戸市で）

授業を受けたのは、2年生約60人。まずはボールを使わずにウォールディングアップ。その後ペアやグループに分かれ、ボールの扱いに慣れてき

佐藤 あり

原小春さん(17)は「ボールの扱いが上手だと佐藤さんに褒めてもらえてうれしかった。バレーボールが好きになった」と喜んでいました。



バレー

長浜さんは「柿沼さんはアンテナが高いので詐欺に気付き、行内の連携プレーで被害を防止することができた」と振り返った。

展示されているのは高さ3メートル、全長38メートルの仮囲い。「泉町ロードギャラリー」と名付けられ、「未来の水戸」や「未来の街」をテーマにした計73作品が並ぶ。「テツ・アートプラザ」は、旧三菱UFJ銀行水戸支店だった洋風建築を改修するもので、美術館や交流スペースを備えた施設に生まれ変わる予定だ。

仮囲いのギャラリーは、施設を施工する田村工務店（水戸市）が発案した。近隣にある学校に呼びかけたところ、市立五軒小学校の5、6年生のほか、市立第一中、大成女子高、常磐大高、茨城中・高の各美術部の部員が制作に参加した。完成した作品を取り込んで電子画像にし、シール加工された紙に印刷して仮囲いに貼った。

常磐大高美術部員の作品はカラーシールドだ。5月に周辺地域を巡って、水戸芸術館のタワーなど好きな場所を思い思いに撮影。写真を切り貼りして、アクリル絵の具で空の青色を基調に色付けし、完成させた。

提案した同部2年、前島未羽さんは「自分たちの作品を街の人に見てもらえてうれしい」と笑顔を見せ、水戸の未来像について「近未来的な建物ができても、懐かしさのある街並みも残っていてほしい」と話していた。

水運の街・鉾田 歴史伝える展示

水運の街として栄えていた鉾田の歴史を紹介する企画展が、鉾田市の市生涯学習館「とくしゅくの杜」(旧鉾田市立徳宿小学校)で開かれていた。

とくしゅくの杜市民学芸員運営協議会と市教育委員会が企画する展示の5回目。今回は「鉾田周辺の河岸・北浦及び流域河川の舟運と人々」と題し、江戸時代の鉾田などを紹介して

展示されている河岸のジオラマ(鉾田市で)

当時の舟による輸送が主

で、七瀬川(現在の鉾田川)に沿って河岸ができ、問屋、飲食店などにぎわい、河川地域の経済の中で栄えたという。会場は、鉾田市の東野地区を歩いて撮影したジオラマが展示されており、当時の情景をイメージし、

カメラのレンズ作ったよ

夏休みの小学生にカメラ、レンズの仕組みを楽しく学んでもらおうと、結城市の石島建設プラネットホール・ゆうき図書館(市民情報センター)で、「カメラレンズ工作教室」が開かれた。

市文化・スポーツ振興事業団の主催。講師は、人工蛍石などの開発、製造、販売を手がける「キヤノンオプトロン」(本社・結城市鹿窪)の社員が担当した。小学3〜6年生23人が参加。虫めがねや工作用紙など身近な材料を使って望遠レンズ作りに挑戦した。紙を丸めて作った筒に光が入らないようしっかりテープで留めるなど約1時間半かけて工作した。

楽しんだ。「工作

